

第2回 長安ロダム環境モニタリング委員会 議事概要

1. 日 時：平成24年3月6日（火）（15：00～17：00）
 2. 場 所：ホテル千秋閣(旧自治会館)6F孔雀の間
 3. 出席委員：木下 覺（徳島県植物研究会 会長）
小林 實（河川・溪流環境アドバイザー）
佐藤 陽一（徳島県立博物館 自然課長）
浜野 龍夫（徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
総合科学部社会創生学科 教授）
森本 康滋（徳島県自然保護協会 会長）
山田 量崇（徳島県立博物館 主任学芸員）
山中 亮一（徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部
エコシステムデザイン部門 講師）
◎湯城 豊勝（阿南工業高等専門学校 副校長）
- （五十音順、◎：委員長）

4. 配付資料：

- 資料1 議事次第
- 資料2 委員名簿、配席図
- 資料3 委員会規約
- 資料4 長安ロダム改造事業に係る平成23年度モニタリング調査の実施状況及び
評価結果[概要版]
- 資料5 長安ロダム改造事業に係る平成24年度モニタリング実施計画書(案)
[概要版]
- 別添資料1 長安ロダム改造事業に係る平成23年度モニタリング調査の実施状況
及び評価結果
- 別添資料2 長安ロダム改造事業に係る平成24年度モニタリング実施計画書(案)
- その他 参考 傍聴される方へのお願い
参考 取材についてのお願い

5. 議 事：

- (1) 長安ロダム改造事業の進捗状況について
- (2) 平成 23 年度のモニタリング調査結果について
- (3) 平成 24 年度のモニタリング実施計画（案）について

6. 議事概要：(指摘委員の敬称略)

(1) 長安ロダム改造事業の概要について

- ①特に意見はなし。

(2) 平成 23 年度のモニタリング調査結果について

1) 騒音振動

- ①特に意見はなし。

2) 水質

- ①監視としての写真撮影は、比較検討が可能なように同じ地点・アングルから撮影した方がよい。また、写真撮影だけでなく、水色早見表の記録チャートを用いた記録も行っておくとよい。記録データが残るので後で解析に使用できる利点がある。

- ②オイルフェンス内の濁質の沈降によって湖底への影響について、シルトの堆積状況について工事終了後でよいので、湖底の様子を水中カメラで撮影するような対応を実施してほしい。また、今回は湖底への打設であり底泥の舞い上がりは少ないと思うが、鋼管を抜く際に湖底の嫌気物質が舞い上がる等が想定されるので、注意が必要である。

3) 植物

- ①ラン科の種は、共生する菌との関係や移植等の知見がほとんどないため、実際の作業はそうとう難易度が高いものと認識している。試行錯誤を行いながら、随時問題点を改善していくと良い。

- ②ラン科の芽生えは、写真を見る限りラン科の種 B ではなく、別の貴重種である可能性がある。ラン科 B' やラン科 D 等として、今後の状況を把握してほしい。

4) 猛禽類

- ①仮設構台の騒音は非常に低く、オオタカ、サシバともに問題ないレベルと考えられる。

- ②猛禽類の騒音の影響に関する基準値は、全国的な調査結果や文献等の一般的な見解を用いられており、過年度より継続して繁殖に成功してこともあり、仮設構台の騒音の影響は問題ないと考えられる。

(3) 平成 24 年度モニタリング実施計画 (案) について

- ①水質調査は、定点だけでなく、工事による濁水の広がりの確認された場合には、その広がり状況を踏まえて、順応的に調査地点を増やす対応をした方がよい。
- ②植物の移植時期は、何度か現場の状況を確認するなどして、最も移植に適した時期に実施するようにしてほしい。
- ③オオタカはこれまで 12 月には出現していたが、今年度は冬鳥の渡来が少なかった(えさが少ない) せいか、例年よりも繁殖が遅れる可能性がある。このような繁殖時期の変化を考慮して、モニタリング調査や工事の配慮を実施してほしい。
- ④サシバは、工事箇所に営巣地が近い場合には、工事の際には十分配慮してほしい。

(4) その他

- ①広報に関しては、今回の取り組みのやり方を記録としてきちんと残しておいて、事務所の取り組みについて一般の方々に分かってもらう工夫をお願いしたい。
- ②広報や委員会情報の公開については、貴重種情報の取り扱いには十分注意して情報公開してほしい。

以上の議事を踏まえ、平成 23 年度モニタリング調査結果および平成 24 年度モニタリング実施計画は了承された。

(以上)